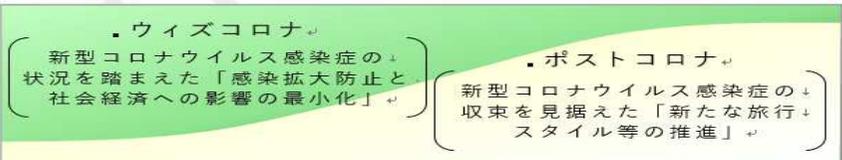


(指標に関する意見)

番号	各委員からの意見<要旨>	対応状況
1	<p>(石井(至)委員) <重点目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どこを重点的にトップに頑張りたいのかが不明。 <p>(遠藤(正)委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 底上げをすることでどこかないと、底上げってところをどうやっていこうかという時に、個別のケアができないと思う。そこが必要と感じた。 	<p>「5期計画中間取りまとめ」の特に注力する施策の方向性に沿って、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウイズコロナ期における「安全・安心」で選ばれる観光地づくりの観点から「コロナ対応の評価」を新設。 ○ 感染症の状況に応じた誘客対象の最適化の観点から、「道内客の宿泊旅行への転換」及び「道外客の取り込み」に係る指標を新設。 ○ ポストコロナを見据え、新たな北海道観光価値の創出の観点から、ATWSを契機としたAT推進の観点から、新たに「コト消費」の指標を新設。
2	<p>(石井部会長) <指標設定値について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 満足度と繁忙・閑散期比率と道央圏以外の宿泊比率と長期滞在者の割合のハードルが高い。事務局で再検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指摘を踏まえ、次のとおり修正。(資料2) <ul style="list-style-type: none"> ・満足度(道内47% ⇒ 40%、道外57% ⇒ 50%) ・繁忙期・閑散期比率(68% ⇒ 60%) ・道央圏以外の宿泊比率(50% ⇒ 1,540万人 延宿数に変更) ・長期滞在者の割合(19% ⇒ 112万人 人数に変更) ・道内宿泊客の割合(22% ⇒ 1,074万人 宿泊人数に変更)
3	<p>(サムット委員) <指標設定値について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道のバス停は英語表記がないところが多い。5割以上バス停に英語表記をさせるとか、いつまでに達成させるとかの指標も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道運輸局が実施し、道もワーキンググループに参画している「北海道ブロックにおける訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業」において、バスやその他の交通サービスの目標を設定していることから、国とも連携しながら満足度向上に努めていく。
4	<p>(遠藤(乾)委員) <年次目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最終目標を鑑みながら、各年度何をするのか年次計画が必要ではないか。 <p>(石井部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5年間で、来年度計画の進め方を誰もが共有できる形で、シナリオとしてどう考えるか、具体的な記載が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の計画では、「中間取りまとめ」で整理した下図の考え方を基に施策を展開。 なお、観光を巡る状況は大きく変化することが予想されるため、年次目標は設定せず、必要な施策は毎年度行っている予算編成の中で整理。 

(計画の考え方に関する意見)

番号	各委員からの意見<要旨>	対応状況
5	<p>(石井(至)委員) <リピーター対策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お金をよく使うのは道外客で約8割はリピーター。重点的に道外客のリピーター対策を考えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道外のリピーター対策としては、本編37ページ「(1) 道民の道内旅行再発見、国内旅行の需要喚起」に記載のとおり、HOKKAIDO LOVE!プロジェクトの推進や地域の魅力を活かした観光地づくりの推進、戦略的な国内プロモーションの展開、教育旅行の誘致促進を進める。
6	<p>(富田委員) <満足度の向上策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 満足度に関しては、不満足の方々の声をどう減らしていくのか、どう満足に繋げていくかが、結果として次の施策立案に繋がるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リピーターは、満足度調査で「とても満足した」と回答した割合が高い人ほど来訪意欲が高くなるため、「とても満足した」割合を目標指標に設定。 一方、「近年の満足度調査では「不満等」と回答する割合が高くなってきているため、「不満等」とした原因の分析を行い、次の施策につなげていくことが必要です」との文言を本編51ページに追記。
7	<p>(佐藤委員) <「コト消費」の目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ATWSがオンラインでの開催となったことで、アドベンチャートラベルという体験できる旅行、新たな旅行スタイルが波及しないことが懸念。コト消費の数値目標はかなりの努力をしないと困難ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ATWSのバーチャル開催は、オンラインで世界中の参加者を増やす効果が期待。本道の魅力あるコンテンツを幅広く世界に発信し、北海道を訪れて直にその魅力に接してみたいと世界中の方に思っただけのような関係機関と協力しながら取り組む。
8	<p>(サムット委員) <インバウンド増加に向けた取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンドの人を見ると少し怖い印象を受けると思うが、そういう考え方をどのように軽減させるか検討することも重要。 ○ インバウンドによるメリット(効果)を打ち出す仕組みも重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年、インバウンドの増加により、冬季の観光入込客数が増加しており、季節偏在の解消に寄与している。 また、1回の旅行での滞在日数が日本人観光客よりも多いことから、観光消費額単価も大きく、観光総消費額は本編19ページに記載のとおり、令和元年度実績で4,323億円と道外客の4,296億円を上回る規模になっている。 このような効果を広く道民に周知することにより、観光業におけるインバウンドの重要性を広く周知していく。

番号	各委員からの意見<要旨>	対応状況
9	<p>(サマット委員) <道内在住外国人の役割> ○ 北海道の「観光振興に向けた行動指標と役割」内の「北海道在住外国人の役割」を追加されたい。</p>	<p>○ 指摘を踏まえ、本編52ページ「観光振興に向けた行動指標と役割」の「1 道民」の項目に次のとおり役割を追記。 「北海道在住の外国人は、道民の一員として、外国人ならではの視点で本道の良さや魅力を国内外に向けて広く発信する。」 (参考) R 2においては、道内在住の台湾、香港、タイ等のインフルエンサーに道内取材していただき、情報発信をする事業を実施</p>
10	<p>(サマット委員) <二次交通の整備について> ○ 観光立国として二次交通の整備も大切。これからのバスの運行計画を道が後押ししていくなど、移動しやすい環境づくりを実現させてほしい。</p> <p>(石井部会長) ○ 観光振興というのは、交通インフラをどう活用するか、充実するかという広がり部分をきちんと触れるべき。</p>	<p>○ 交通インフラについては、本編40ページ「(1)広域観光の拠点としての道内空港の利活用」に次のとおり記載。 「航空路線の新規就航・拡大、クルーズ船の寄港促進、フェリー・新幹線の利用促進などアクセスの充実及び各拠点整備を図るとともに、MaaS等シームレス交通の推進による二次交通の利便性向上により、来道者の増加と道内周遊促進を目指すほか、道内7空港一括民営化を契機とした、道内の各空港を核とした地域の魅力づくりの促進と道内周遊促進を目指していきます。」</p>
11	<p>(サマット委員) <旅行者比率のリバランスについて> ○ 東南アジアからの旅行者はもっと伸ばせる。インドネシアやベトナムを合わせて3%ですが、タイと同じ9%を目指すといったアジアの中でも利率が低いところに重点をおくべき。</p>	<p>○ 指摘を踏まえ、本編37ページ「3 旅行者比率のリバランス」に「渡航制限解除等を見据えた海外需要の獲得を目指し、<u>欧米や東南アジア</u>など東アジア以外からの観光客を増加させるなど…」と修正。</p>
12	<p>(鈴木委員) <SDGsの視点について> ○ SDGsとかサステナブルという言葉がどこにも出てこない。このままだと北海道の観光業、もしくは観光関連産業の持続的な発展が見えない。観光が振興するものではなくて、地域を活性化するために観光を振興するはずなので、ここのメッセージづくりが非常に欠けているというのが残念。</p>	<p>○ 指摘を踏まえ、本編42ページ7の「(1)持続可能な観光への取組」で持続的な観光への取組として「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」を参考に持続可能な観光への取組を進めていく旨を追記するとともに、本編28ページの「2 北海道観光が将来的にめざす姿」に「道民の貴重な財産である自然環境を守り育てながら次の世代へつなぐ」との項目を追記。</p>
13	<p>(鈴木委員) <指標に対するマネジメントについて> ○ 目標指標を作るのは良いが、これが道民に伝わっているのか、そして誰がどうやってこの指標達成に向かっていくのかというマネジメントの視点がどこにも入っていない。マネジメントのサステナビリティがどこにも見えないところが残念。</p>	<p>○ 指摘を踏まえ、今後、計画策定に当たって道民の皆様へ周知し、意見募集を行うほか、今後の計画の推進に当たっては、本編5ページ「3 計画の点検・見直し」で毎年度、目標指標や各施策の進捗状況を管理する推進管理を行い、結果をホームページ上で公開するなど周知に努めていく旨を追記。</p>

番号	各委員からの意見<要旨>	対応状況
14	<p>(鈴木委員) <道民の意識向上について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道民はインバウンドのお客様によって地域が潤ったり、道民そして国民の国内外の観光客によって、北海道は元気になるし、助けてもらっているのだというところをもっと皆が考えないと、いつまで経っても、そういう満足度向上に繋がらない。 <p>(石井部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 持続的な地域社会形成にとって観光というのは一定の重要度を持つという、ある種、全体の中での持続的経済社会形成のための観光の位置づけが必要、そのために、道民が自ら参加して行動するという、そういう絵をもっとはっきり書いた方が良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本計画においては、本編35ページ「(2)地元(道民)からも愛される観光地づくり」において、まずは地元(道民)の人が地元を楽しめる観光地づくりを進めていくことや、P37ページ「(1)道民の道内旅行再発見、国内旅行の需要喚起」では、本道観光の8割を占める道民が道内観光の魅力を再発見し、共有する仕組みづくりを進める。 ○ また、指摘を踏まえ、道民が自ら参加して行動する観点から、52ページに記載の道民の役割を追記。
15	<p>(鈴木委員) <クリーン北海道について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クリーン北海道というのは、おかしい。コロナウイルス対策なのであれば、セーフティ北海道です。クリーン北海道といった瞬間に全く意味は変わるので、これはセーフティという言葉にした方が良くはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「クリーン北海道」は、密になりにくいアウトドア環境など本道の価値や優位性を再評価し、積極的な情報活動により『「安全・安心」で選ばれる観光地づくり』を目指していこうとするもの。施策展開の方向性は、既に昨年12月の「中間取りまとめ」において公表しているものですが、指摘を踏まえ、方向性の趣旨をわかりやすくするため、本編30ページと31ページの記載も「クリーン×セーフティ北海道」に修正。
16	<p>(鈴木委員) <持続可能な観光ガイドラインについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ J S T S - Dは、マネジメントと社会経済と文化と環境なのだが、環境という言葉がどこにも入っていない。北海道が今から出すには、非常に恥ずかしい振興計画になるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指摘を踏まえ、本編28ページでは「持続的な観光関連産業の発展」の項目に「道民の貴重な財産である自然環境を守り育てながら次の世代へつなぐ」との項目を追記したほか、本編31ページ及び本編33ページ「(4)環境と共生する観光の振興」の項目を立て、北海道の貴重な財産である自然環境を損なうことなく守りながら、道民のみならず、北海道を訪れるすべての人々がその豊かさを享受できるように環境と共生する観光振興に努めていく旨を追記。 また、本編35ページでは、「(2)地元(道民)からも愛される観光地づくり」の項目に、道民が誇りと愛着を持って自然環境や多様で豊かな文化を大切に守る旨を追記

番号	各委員からの意見<要旨>	対応状況
17	<p>(石井部会長) <行政の役割について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特に役割分担の行政のところには、狭義の観光振興といったことしか書いていないということだと、道全体としての観光をどう推進するかという計画にどう読んでも見えない可能性があるので、行政の役割なり観光の位置づけを整理しなければ、なかなか本当に方向付けができてこないのでは。 ○ 行政は観光振興に直接関わることしかやらないみたいな書き方になっているが、他分野ともきちんと繋がりを持ち方向付けをしていただく、必要があると強く思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指摘を踏まえ、役割分担については、本編53ページに「交通政策部門や環境政策部門など一体となって推進することとし、事業者など関係団体との連携調整に努める」の文言を追記。
18	<p>(佐藤委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道観光が将来的に目指す姿、このゼロカーボンについては、どこかで記述なり、検討する部分が必要なのではないのか。全くないのはどうなのか。 <p>(石井部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この計画でも何らかの形でカーボンニュートラルに向けた取組ということをしないと業界で生き残れないというような啓発・問題提起に触れていただく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指摘を踏まえ、本編31ページに「観光と共生する観光の推進」の項目を立て、本編33ページ「(4)環境と共生する観光の推進」では、本道の2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボン北海道」の取組を追記。
19	<p>(石井部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交通関係の指標は取り出したら、何を代表的な指標にするか難しい面もあるが、観光に関連するものでも、Maas的な取組だとか、直接的に観光に関わるような動き、指標があるかと思うので、検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指摘を踏まえ、インバウンドの目標値見直しのタイミングで交通政策部門と連携した数値目標の設定について検討する。

番号	各委員からの意見	対応状況
20	<p>(ジョン委員) <安全・安心への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンドのリピーターは、日本が外国人客を受け入れる体制が整っているのかと感染防止に係る安全面への関心が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染防止に係る安全・安心への対応については、本編32ページ「(1) 北海道スタイルなどの感染拡大防止策の徹底による安全・安心の提供」に感染リスクを低減する行動やビジネススタイルを実践する「北海道スタイル」浸透・定着に向けた取組を推進する、本編33ページ「(3) 積極的な情報発信」に道が実施する感染防止対策の取組など「安全・安心」で選ばれる積極的な情報発信を行うと記載。